## 国土強靱化法を迎え撃つ! 一伊達市館山下町海岸の例—

安藤 忍 (伊達市、前浜見守り隊)

日本自然保護協会の鶴田由美子事務局長は同協会機関誌『自然保護』(No.538、2014年3・4月号)掲載の記事「国土強靱化法がやってきた」において、「これから日本各地で何が起きるかわからない、活動に備えよ」と呼びかけました。その一端のような公共事業が、伊達市館山下町海岸で現在進行中です。以下にその経過を報告します。

### 第一ラウンド

伊達市では、2013 年 4 月に胆振総合振興局産業 振興部農村振興課(以下振興局という)から市街 14 区自治会役員に「総額 5 億円 5 年計画の館山下 海岸・農業用護岸工建設」が伝えられた。役員の中から「牧草地でないのに、なぜ農村振興課が?」と 議論になり、11月まで3回の住民説明会が続いた。

2013年9月の説明会では、「海岸が侵食されて いるから」と振興局は説明した。「(建設で) 町が 潤うので賛成」が大勢を占め、すんなり終わるか と思われた。ところが、「海岸は侵食していない」、 「故郷を壊すのか」との予期せぬ反論が住民から出 たのである。侵食についての資料を準備しなかっ た振興局はあわてて、再度説明会を開催すること でその場をしのいだ。10月、振興局は二枚の写真 を侵食の証拠として示した。この写真を見た住民 たちは、「あなた方は砂浜が元に戻ることを知らな いのか! | と一斉に反論。振興局は言葉を失った のである。11月下旬の最終住民説明会で「有義波 高資料」を振興局は配布し、「護岸工建設区間(300 m) に波が集中する」と説いた。カラーで彩られた 「有義波高」の海底図(海底地形を等深線で表わし、 波の方向や集中する区間を示した図)により、説 明の真偽はともかく、私を含め住民は沈黙してし まったのである。

2014年7月、住民説明会をへて工事が始まった。私は工事開始から『前浜見守り隊ニュース』を発行し、異議を唱えた住民らとともに「国土強靱化法」を迎え撃つことにした。

#### 第二ラウンド

2014年12月19日、延長50m、工費5千万円の一期工事が終了した。そして、翌年1月8日爆弾低気圧が通過し、完成後20日ばかりの護岸工の被覆ブロックが崩壊したのである。見つけたのが前自治会長で、市から振興局へ伝えられた。そのことを記した『見守り隊ニュース No.⑩』が配布され、「20日とはひどい」が世論となった。そして7か月が過ぎた。この間、「ひどい工事」の見学者も現れた。

2015年8月4日、道負担による補修工事の住民 説明会が開かれ、参加した住民の多くが発言し、 疑問を述べた。

8月22日、日高管内新日高町の海岸護岸90mが決壊した。木村克俊教授(室蘭工業大、海洋工学)は、「海底の様子を詳しく調べる必要がある」と新聞でコメントした。伊達前浜の住民は、伊達漁港で設置された西防波堤ケーソンがわずか2年で傾き続けているのを知っているので、「海を甘く見た」結果と日高の決壊を思っている。調査よりも先に予算をつける、これが「国土強靱化法」の現実なのである。

# 工事前のふる里の浜は サケ釣りでにぎわっていた 2013/10/08 9:43:44

#### 第三ラウンド

2015年10月14日補修工事が始まり、同月23日で終了した。しかし、説明された計画(「被覆ブロック工法」)を一部変更した工事となった。完成した護岸工事を見た地域住民は、「また、崩壊するワ。税金のムダ遣いだ」と批判している。

「この護岸工は2.7 mの津波を想定して造る」と振興局は答えた。しかし、あの3月11日の2 mの津波は高さ3.5 mの砂丘で阻止されたことを住民たちは知っている。ムダな護岸工事よりも、真冬に凍結した道を車で逃げる道路の建設が先決だ、と住民は要求している。この「被覆ブロック工法」、12月29日にまた崩壊が始まったのである。

「前浜見守り隊」は、3月上旬から、護岸工裏のハマナス群落2か所に棒を立て、砂浜の変化を記録するとともに、コンクリートなどに反応する外来種であるオニハマダイコンの生息状況を観察し、砂浜の生態系に与える影響を調べている。